

## 教育ボランティアのススメ その4 『まずは、教育ボランティア活動から始めよう』

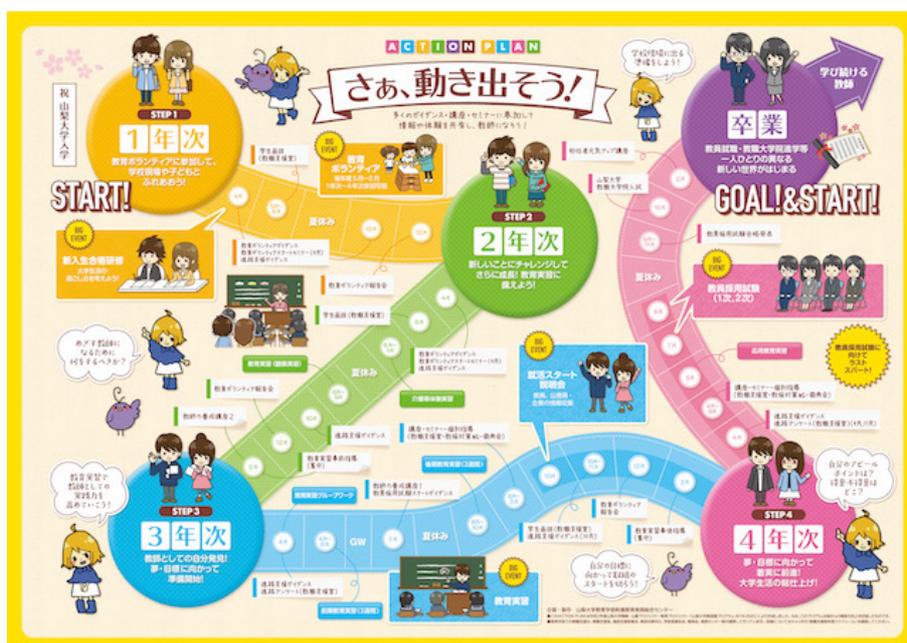
山梨大学教育学部附属教育実践総合センター長  
教育ボランティア委員会委員長

田中 勝

令和2年度、コロナ禍により教育活動は大きな影響を受けました。感染拡大防止のため教育ボランティアは前期活動を中止しましたが、後期から再開し、最終的な延べ活動者数は112名、社会参加実習の単位取得者は64名でした。大学の授業がオンライン形式に移行し、対面による活動が大きく制約されるなかで、教育ボランティア学生を受け入れてくださった関係各位に心より感謝申し上げます。この一年、「子どもたちの学びをとめない」、「子どもたちの笑顔が見たい」という思いから、学校では多くの努力や工夫がなされてきました。そのような環境の中に身を置き、子どもたちに寄り添い、コロナ禍の教育現場を「自分の眼」で見てきたことはみなさんにとって財産となるに違いありません。

さて、山梨大学の教育ボランティア活動は「平成15年度山梨県放課後学習チューター事業」を出発点とし、令和3年度で19年目に入ります。間もなく成人式を迎えますが、この歴史と伝統をつくってきたのは「先生になりたい」というみなさんの夢や願いであり、「子どもが好き」、「山梨県の教育をよりよいものにしたい」、「教師をめざす後輩を応援したい」という思いが源泉となったと言えるでしょう。山梨県教育委員会や市町村教育委員会との緊密な連携により教員ボランティア活動は学生生活に定着し、教育現場における子どもや先生方とのふれあいや学習支援は教職に関する意欲を高め、教員に必要とされる実践的指導力の向上につながっています。大学・学生にとっても、受入機関（子ども、先生、学校、教育委員会等）にとっても Win-Win の関係にあるのが教育ボランティア活動です。強制されるのではなくみなさんの自由な意思により取り組むところに価値があり、その成果は無尽大です。加えて、特筆すべきは、教育ボランティアガイダンス、報告会、ガイダンスブック作成等が、学生運営委員会を中心とした学生主体の活動となっていることです。こうした経験によって培われていく企画力・調整力・実行力等は社会に出たときに必ず役立つはずで

結びにかえて、みなさんへメッセージを贈ります。教師をめざすなら教育ボランティア活動から始めてみませんか？ 4年間続けてみませんか？ 受入先の先生方、子どもたち、教職支援室のスタッフはみなさんの応援団となり、みなさんの夢・希望を実現する強力なサポーターとなってくれるはずで



ACTION PLAN (令和3年度入学生用) - 山梨大学教師塾プログラム -